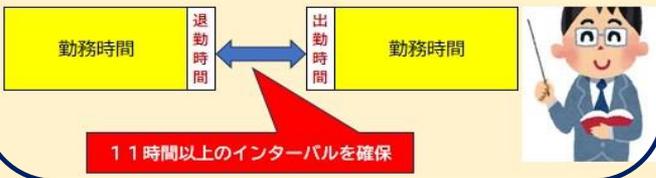


今回のテーマ 「勤務間インターバル」を確保する大切さ

「勤務間インターバル」とは

1日の勤務終了後、翌日の出勤までに一定の**休憩時間（インターバル）**を設けるもの

令和6年9月30日付けで発出された文科省の通知の中にも、「教師が十分な正割時間や睡眠時間を確保し、心身ともにゆとりを持ち教育活動を行うことができるよう……中略……11時間を目安とする勤務間インターバルを確保すること」と明記されています。



本年度9月より、県立高校モデル校3校（城東・富岡西・阿波）が導入

インターバル導入に向けて

教員の意識改革と業務負担の軽減

- 毎日の11時間インターバルを管理することで「日々の帰る」時間を意識した働き方が行える
- 積極的な業務の削減、業務負担の平準化を推進

導入までのスケジュール（モデル校）

- 7月上旬 妹尾昌俊 氏による講演会をモデル校教員が視聴
- 7月～8月 業務削減のための意見募集（教員から）
校務の削減、平準化
- 9月～ インターバル計測開始

削減および軽減した（する予定のある）主な業務

①城東高校

- 校外模試について
 - ・3年生（希望受験）の模試を1つ廃止
 - ・2年生（全員受験）の模試を希望受験に変更
- OPTA役員総会について
 - ・役員会（8月）の開催時間帯を勤務時間内に変更
- 新入生クラス分けテスト（3月下旬）を廃止
- 調査について
 - ・校内外の調査・アンケートを可能な限りClassiまたはFormsで実施（従前より活用があったが、さらに活用を促進）

②富岡西高校

- 出張何いについて
 - ・三連帳票の紙での出力廃止（復命書の提出省略、11月～試行開始）
- 校内の連絡体制のスリム化について
 - ・職員朝会連絡票をTeamsでWeb共有し、共同編集・予定確認を効率化
 - ・教育Joruriスケジュールページの活用促進（会議等の日程調整時間の短縮）
- 休暇取得促進に向けての環境整備について
 - ・夏季休業中の学校閉庁日の増設 R5 2日 → R6 3日
- 調査について
 - ・校内外の調査・アンケートを可能な限りFormsまたはスタディサプリで実施（従前より活用があったが、さらに活用を促進）

③阿波高校

- 校外模試について
 - ・1、2年生（希望受験、5月、10月、1月、3月の計4回）の模試を廃止
- 採点の効率化について
 - ・デジタル採点システムの導入（10月～）

モデル校3校の在籍時間などの増減（6～9月）

項目	年度	3校平均値	増減率（過年度）
時間外在籍等時間（時間）	R6	42.3	-11%
	R5	47.3	
45h超（人）	R6	17.5	-6%
	R5	18.7	
80h超（人）	R6	4.42	-46%
	R5	8.2	

※R5、R6のモデル校3校の6月～9月のデータより算出

教員の意識改革 × 業務負担の軽減

時間外在籍等時間・長時間労働者の減少

働き方アドバイザー（妹尾昌俊 様）より

- 教員の健康を第一に考え、勤務間インターバルは**推進していくべき！**（11時間ではなく本当は13時間のインターバル確保が必要）
- 部活動や補習など業務は多いのに、インターバルなんて無理と言う声もあるが、教育活動等のやりすぎは生徒にとっても負担。まずは細かく業務を洗い出し、精選することが大切
- （インターバル導入にあたっては、）「持ち帰り業務」をしないことが重要

